おにのほん

『おめんです』

いしかわ こうじ／作・絵　偕成社　E イ

こわーい おにの おめん。かぶっているの だあれ? おめんを とると、いろいろな どうぶつたちが かくれています。あかちゃんから たのしめる しかけえほんです。『おめんです 2』もありますよ。

『まめの かぞえうた』

西内 ミナミ／さく　和歌山 静子／え
すずき出版　E エ

ひとーつ、ふたーつと かぞえていくとつちのなかの まめが だんだん おおきくなっていくよ。どこかに おにが かくれているからさがしてみてね。

『ちびっこ ちびおに』

あまん きみこ／ぶん　わかやま けん／え
偕成社　E ア

やまにすむ ちびおには にんげんのまちに いってみたくて たまりません。そこで おかあさんに ぼうしと うわぎを きせてもらって、にんげんの こどもたちが かようようちえんに やってきました。

『鬼まつりの夜 2月のおはなし』

富安 陽子／作　はせがわ かこ／絵
講談社　913 ト

節分の夜のことです。ケイタが目をさますと外からこんな歌が聞こえてきました。「鬼ごっこするもん、この指とまれ。」その声にひきよせられ、 外に出るとバキという 赤鬼の子が 立っていました。

『だまされたトッケビ 韓国の昔 話』

神谷 丹路／編・訳　チョン スンガク／画
福音館書店　388 ダ

韓国のトッケビという不思議な生きものを知っていますか？ 日本語では「鬼」と訳されることもあるそうです。そんなトッケビのお話しが 15話 収められた昔 話 集です。

『魔法のたいこと金の針』

茂市 久美子／作　こみね ゆら／画
あかね書房　913 モ

小さな仕立て屋さんのまえに、たいこの ばちがおちていました。ばちを うけとりにきたのは 鬼の子でした。鬼の子は、やぶれた たいこのかわを なおしてほしいと いいます。その たいこは、春をよぶ ふしぎな たいこでした。

『オニのサラリーマン』

富安 陽子／文　大島 妙子／絵　福音館書店
E ト

オニの オニガワラ・ケンさんは じごくにつとめる サラリーマンです。まんいんバスにゆられ、こわい かおをしたえんまだいおうさまに しかられて まいにち たいへんです。

『日本の昔話1　はなさかじい』

おざわ としお／再話　赤羽 末吉／画
福音館書店　388 オ

節分の豆まきの ゆらいとなった「鬼の婿どの」の おはなしや、みんなのよく知っている「花咲かじい」のおはなしなど 日本の昔 話が 58話のっています。